

2013年

# 年頭挨拶

一般社団法人 日本自動車車体工業会  
会長 水嶋 敏夫

あけましておめでとうございます。

2013年の新春にあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年の車体業界を振り返ってみると、生産台数の回復に伴い比較的順調に推移した1年であったと思います。エコカー購入補助金やエコカー減税による需要増に加え、震災復興に必要なさまざまな「働くクルマ」の増産要請もあり、会員の皆様はたいへんお忙しい1年間であったと思います。

昨年1月～11月の当会会員生産台数を見ると、好調な国内需要に支えられ全体では前年比26%増の225万台、その内、委託生産車を除く当会特有の非量産車種は28%増の12.9万台となり、震災から復旧した一昨年7月以降17か月連続の前年超えと好調に推移しています。

この様な中、当会は「安全への対応」「環境への対応」「会員支援活動」を重点項目として取組み、皆様のご協力でいろいろと成果を上げることができました。

「安全への対応」では、リアバンパー、及びシート&シートベルト関係法規が7月から大幅に変更になりましたが、順調に対応が終了しました。リアバンパーは会員への装置型式指定取得指導だけでなく当会特有のJABIAプレート制度を創設し、シート&シートベルトでは当会共通仕様を共同開発し、会員会社での車検対応が円滑に出来るようになったことは大きな成果と考えております。更に各種規格の策定や調査研究業務におきましても概ね、計画通りに進捗しております。

「環境への対応」では、CO<sub>2</sub>、VOC、産業廃棄物の削減とも、皆様のご協力によりまして、当会目標を達成できる見込みとなりました。昨年度からスタートさせました新環境基準適合ラベル、通称「ゴールドラベル」

の運用も、会員への取得支援活動、社会へのPR活動とも積極的に進め、112機種で適合認定となりました。

「会員支援活動」では、本年度から新たにスタートさせました「車体業界将来ビジョン策定」と「高齢者雇用推進事業」とも、現状調査のまとめが終了しました。どちらも当会を取り巻く課題がたいへん多いことが判明し、対応に苦慮しておりますが、年度末には皆様に中間報告ができる段階になっています。

以上のように、皆様のご協力により事業計画は概ね順調に進捗させることができたと判断しております。

なお、当会正会員数は増加を続け、昨年4月以降新たに11社に入会頂き179社となりました。この4年間で19社も増加し、たいへんありがたく思っておりますが、当会への期待も、年々大きくなっていますことを実感すると共に、責任の重さを強く感じております。

さて、本年の経営環境を見てみると、欧州の景気低迷、円高の長期化、新興国の成長鈍化、近隣国との関係悪化などの懸念材料が引き続いております。しかしながら、新政権による新たな景気対策も期待でき、膨大な震災復興予算の執行も続くため、国内商用車の需要は昨年並み以上と考えています。

このような中、日本のものづくりの維持を念頭におき、引き続き「会員に喜ばれる、頼りにされる車体工業会活動」を充実させていく所存ですので、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、会員並びに関係各位のますますのご繁栄とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。